

岐阜城を訪れて

2018年4月10日

我部山民樹

高知の土佐カントリー倶楽部と黒潮カントリー倶楽部で高校の同級生たちと好例のゴルフをする。その行き帰りに東海道沿線の名城を訪れることにしている。また、登山の時や四国でも立ち寄ることにしている。松江城、松本城、松山城、今治城、宇和島城、徳島城址である。高知城と丸亀城は毎年のように訪れている。東海道沿線では小田原城、名古屋城、大垣城、大阪城、姫路城、清州城、彦根城、浜松城、岡山城、犬山城、駿府城に立ち寄った。今年は岐阜城を訪れることにする。

岐阜城



岐阜城

斎藤道三・織田信長の居城

金華山（きんかざん）山頂に位置し、1201年に鎌倉幕府執事二階堂行政により初めて砦が築かれたといわれています。岩山の上にそびえる岐阜城は、難攻不落の城としても知られ『美濃を制すものは天下を制す』と言われるほどでした。戦国時代には小説「国盗り物語」の主人公である斎藤道三の居城でもありました。その後、永禄10

年（1567年）に織田信長がこの城を攻略し、城主となりました。信長は「井の口」と呼ばれていた地名を「岐阜」に、「稲葉山城」を「岐阜城」に改めたといわれています。

信長公・道三公ゆかりの城である。日本百名城の一つである。



斎藤道三

死没：1556年5月28日

斎藤 道三／利政は、戦国時代の武将。美濃の戦国大名。道三流斎藤氏初代当主。名としては、長井規秀・長井秀龍・斎藤利政・道三などが伝わるが、書状などに現れているのは、藤原規秀・斎藤利政・道三などのみである。 [Wikipedia](#)



織田信長 (オダノブナガ)

死没：1582年6月21日

織田 信長は、戦国時代から安土桃山時代にかけての武将、戦国大名、天下人。 [Wikipedia](#)

斎藤道三が息子義龍に岐阜城を譲った後で、義龍と仲違いし、闘いの果てに敗れた。道三が、主君の守護土岐頼芸の愛称妻をもらい受けたが、既に頼芸の子供を

身ごもっていて、それが義龍である。道三が頼芸を追い、美濃の国の実権を握ったが、義龍がそのことを知り、不和になって、争いとなり、道三が敗死。

斉藤義龍



その後、道三の娘婿の信長が義龍を破り、ここに拠点を構えた話はあまりにも有名である。信長入城の後、稲葉山を金華山に、稲葉山城を岐阜城に、井ノ口を岐阜に改称した。後に信長は岐阜城を長男信忠に譲り、自らは安土城に移る。岐阜駅前より路線バスにて岐阜公園に向かう。そこから徒歩で凡そ 10 分程度で金華山ロープウェイ山麓駅にたどり着く。ロープウェイにて山頂駅に向かい、そこから徒歩にて 10 数分で城に辿り着く。天守閣の展望台より、長良川や岐阜の街並みを見渡す。遠くに乗鞍岳が見える。山は急峻であり、堅牢な山城であることが良く分かる。信長はどのルートで、また一体どのようにして攻め落としたのだろうか？籠絡した内応者を利用したのだろうか？



岐阜城資料館に立ち寄る。ご多分に漏れず、鎧兜がある。資料により‘当時の城は 1600 年に城主の信長の孫秀信が西軍に味方した為、東軍に攻められ、激戦の

末に落城。その後廃城となり、天守閣は加納城に移された。現在の城は1939年に鉄筋コンクリート造りで復興された。棟高さ17.7mの3層で一階は武具の間、2階は城主の間、3階は望楼の間として展望台になっている。‘と分かる。天守近くのレストランで市街を眺望しながら、ビールを楽しむ。

下山後、岐阜市歴史博物館に立ち寄る



岐阜市歴史博物館

岐阜市歴史博物館は、岐阜県岐阜市市営の博物館である。岐阜城のある金華山麓の岐阜公園内にある。主に岐阜市の歴史と伝統工芸を紹介している。戦国ワンダーランドと称して織田信長の時代の楽市楽座などを原寸大で復元した体感・体験型の展示施設がある。 [Wikipedia](#)

以上